

平成24年度
中部地方における協働事業創出会議
運営補助業務
業務報告書

平成25年3月

株式会社フルハシ環境総合研究所

目 次

1 . 中部7県「協働」会議実施概要	1
2 . 会議実施内容まとめ	3
2 - 1 開会挨拶	3
2 - 2 分科会（里山・里海の恵みをビジネスにする）	4
2 - 3 分科会（再生可能エネルギーをビジネスにする）	10
2 - 4 分科会（持続発展教育＜ESD＞に本気で取り組む）	15
2 - 5 全体統括	21
3 . アンケート集計結果	23
補足資料：中部7県「協働」会議配布資料	39

1. 中部7県「協働」会議実施概要

(1) 開催目的

中部7県(富山・石川・福井・長野・岐阜・愛知・三重)では、多様な環境事業が展開されている。行政・事業者・NPO・市民・学識者の補完による「協働による事業展開」も活性化している。

今後は、その協働事業が地域社会に根付き、課題改善及びシステム創造に行きつくための方策、資金の循環・人材の安定的雇用・施策やビジネスへの転換が必須となる。

本企画では、社会定着を可能にした先進事例の共有や、安定的事業展開を図る必要性のある活動紹介などを織り交ぜ、持続可能な社会を可能にする、サステイナブル事業を創出するための協働会議を行う。

(2) 開催日時

平成25年3月1日(金) 13:00~17:30(受付 12:30)

(3) 会場

愛知大学 名古屋キャンパス 講義棟7階 L705

(4) 主催

環境省中部地方環境事務所
中部環境パートナーシップオフィス

(5) 後援

愛知学長懇話会

(6) 事務局

株式会社フルハシ環境総合研究所

(7) 総参加者数

110名

(8) 会議内容

時間	内容
12:30	受付
13:00	開会挨拶 中部地方環境事務所 所長 神田修二 愛知大学学長 佐藤元彦氏
	全体オリエンテーション 中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子
13:30	各分科会に分かれて同時開催
	分科会 里山・里海の恵みをビジネスにする
	・富山県【有機無農薬米でどぶろくづくり】民宿「中の屋」 ・石川県【オーガニック食品の販売】株式会社金沢大地 ・福井県【農薬化学肥料を使わない農法】コウノトリ呼び戻す農法部会 ・長野県【ジビエの需要拡大】信州ジビエ研究会 ・岐阜県【ジビエを通じた里山づくり】NPO 法人メタセコイアの森の仲間たち内「猪鹿庁」 ・愛知県【オーガニック食材の朝市】オーガニックファーマーズ朝市村 ・三重県【未利用魚の利用促進】有限会社 OZ (オズ) ・コメンテーター 愛知大学地域政策学部教授 功刀由紀子氏
	分科会 再生可能エネルギーをビジネスにする
	・富山県【木質バイオマス】越の国自然エネルギー推進協議会 ・石川県【太陽光】NPO 法人市民環境プロジェクト ・福井県【小水力】大滝小水力利用協議会 / NPO 法人森のエネルギーフォーラム ・長野県【ネットワーク】自然エネルギー信州ネット ・岐阜県【小水力】岐阜県小水力利用推進協議会 / NPO 法人地域再生機構 ・愛知県【太陽光】おひさま自然エネルギー株式会社 ・三重県【木質バイオマス】E2 リバイブ株式会社 ・ゲスト 日本 EIMY 研究所 所長 新妻弘明氏 EPO 東北 (東北環境パートナーシップオフィス) 統括 井上郡康氏
	分科会 持続発展教育 (ESD) に本気で取り組む
	・富山県【ユネスコスクール】富山市立堀川小学校 ・石川県【ユネスコスクール】金沢市立中央小学校 ・福井県【学校と地域の連携】ふくいユネスコ協会 ・長野県【ユネスコスクール】信州大学教育学部付属松本中学校 ・岐阜県【ユネスコスクール支援】岐阜大学教育学部 ・愛知県【学校支援】あま市教育委員会 ・三重県【学校支援】鈴鹿市教育委員会 ・コメンテーター 国立教育政策研究所教育課程研究センター 基礎研究部総括研究課 五島政一氏
16:55 ~ 17:30	全体統括

2. 会議実施内容まとめ

2-1 開会挨拶

中部地方環境事務所 所長 神田修二：

中部環境パートナーシップオフィスは3期目の事業である。その目的は、環境保全、持続可能な社会を多くの方々の協働により、地域で広げていくことである。中部7県にわたる広域会議は、以下の理由から実施した。それは、県境を越えた取り組みをすること、事業化が必要だができないことを支援すること。フェーズごとに重点を置いてやっていきたい。

また、会議の3つテーマ「再生可能エネルギー」「ESD」「生物多様性」は、どれも社会的に重要で関心も高い。再生可能エネルギーについては温暖化対策でもあり、震災後のエネルギー対策で注目されているテーマである。生物多様性については、当地にて2010年にCOP10が開催され、昨年末には石川県で国連の生物多様性の10年がキックオフした。当地で進めていかなければならないテーマである。ESDは2014年に愛知で国際会議が実施される。どれも大きなテーマだが、これらを持続可能にするには事業化することが重要である。それがこの会議の趣旨であり、目指すべき成果である。多くの先進事例があると思うので、示唆や課題を共に共有し、解決策を議論していただきたい。活発な議論を期待したい。

愛知大学学長 佐藤元彦氏：

中部7県協働会議を盛況に開催され、心からお喜びを申し上げたい。昨年4月に本学を開校した。当地はもともと国鉄の操車場。その後、愛知万博のサテライト会場として利用され、跡地利用コンペで本学設置が採択された。まだ周辺が空き地だが、2016年～2017年にはすべて埋まる。西側は公園、さらに西側に中京テレビ、さらに西に大和ハウス建築のマンション、北側に豊田通商によるツインタワー。愛知大学ももう一棟研究室とコンベンションホールを建築する。本校は地域として環境・サステナビリティに取り組んでいる。地域全体に地域冷暖房を配給するためのプラントが本学の地下に設置されている。愛知大学は、地名とは直接関係がなく「知を愛する(フィロソフィア)」が学名の由来。実り多き成果が得られるよう、祈念する。

中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子：

「サステナブルな事業を本気で創る」をテーマに設定した。今日は本気で議論したい。本事業は、3年間実施する事業。社会に定着するためのサステナブルな事業モデルを構築していきたいと思っている。基本的に地域の課題は地域で解決すべきだが、地域だけでは解決できない課題がある。そういう問題は、広域で解決し、社会定着(事業化)を図りたい。今日は、できていないことを可能にするための議論をしたい。これまでモデル事業はモデルで終わりがちだったが、それで終わらせないようにしっかり育てていきたい。分科会では事例紹介をしていただき、事業化のアプローチを検討・ディスカッションしていただきたい。

2 - 2 分科会（里山・里海の恵みをビジネスにする）

（1）開催趣旨

地域での里山・里海の資源を利用してビジネスを起こしている、起こそうとしている NPO 等をお招きし、生物多様性保全および持続可能な地域創造のための「サステナブルビジネス」の現状と課題を追求する。

（2）事例発表者、コメンテーター、コーディネーター

- ・【富山県】 民宿「中の屋」中西邦康氏
- ・【石川県】 株式会社金沢大地 代表 井村辰二郎氏
- ・【福井県】 コウノトリ呼び戻す農法部会 代表 恒本明勇氏
- ・【長野県】 信州ジビエ研究会 美麻ジビエ振興協議会 代表 種山博茂氏
- ・【岐阜県】 NPO 法人メタセコイアの仲間たち内「猪鹿庁」代表理事 興膳健太氏
- ・【愛知県】 オーガニックファーマーズ朝市村 吉野隆子氏
- ・【三重県】 有限会社 OZ 赤田清美氏
- ・【コメンテーター】 愛知大学地域政策学部教授 功刀由紀子氏
- ・【コーディネーター】 環境省中部地方環境事務所 統括自然保護企画官 曾宮和夫
環境省中部地方環境事務所 自然保護管 高木丈子

（3）一般参加者

16名

（4）内容

）分科会オリエンテーション（コーディネーター：高木丈子）

事例発表者を紹介し、分科会のゴール設定を行った。取り組みの原点、取り組み内容、障害・課題、対策についてディスカッションする。事例発表は、各事例の特性に沿い、A、B、Cに分類し、そのカテゴリーごとに発表していただく。前半は、取り組みの原点から障害・課題まで、後半は対策について発表していただく。

- A 持続可能な農業：恒本氏（福井）・井村氏（石川）・吉野氏（愛知）
- B ジビエと鳥獣害対策：種山氏（長野）・興膳（岐阜）
- C 地域活性化のためのエコツーリズム：中西氏（富山）・赤田氏（三重）

事例発表内容のまとめ

No	エリア	事例発表者		テーマ	事業内容	原点	ターゲット	戦略	障害・課題	対策
		所属	事例発表者							
1	富山県	民宿「中の屋」	中西邦康	地域活性化のためのエコツーリズム	平成 22 年度から百姓塾をスタートし、21 アールの田んぼの有機無農薬栽培を行っている。平成 22 年度から百姓塾をスタートし、古代米・酒米・コシヒカリを生産。3 年かけてどぶろく特区の認定を取得。	南砺市利賀村では、昭和 20～30 年頃の林業が盛んな時期は、人口 3,000 人以上だったが、現在は 700 人を切った。限界集落がたくさんでくる中で、自宅の前の田んぼを使った利賀百姓塾を始めた。	・都市部、若者	どぶろくを地元の方に理解してもらうための「南砺どぶろくの会」、フレンチとどぶろくを組み合わせた「フードツーリズム」やどぶろくプリンを東京で開催された「グルメ&ダイニングショー」に出展。	・自然が豊かで人情味があるところが魅力である一方で、山奥でアクセスが悪い。ただし、イベントには利賀ゼミと称して関東・関西から若者が約 50～60 名ほど来る。 ・後継者不足、人手不足。	・地域活性化スキームは、桃太郎のチームのようなもの。リーダーは地域住民・利賀百姓塾(桃太郎)、コーディネーターは利賀ゼミ(サル)、ディレクターは商工会(イヌ)、ファシリテーターは行政(キジ)。地域の魅力をもう一度考え直して、自らの役割を自覚し、自らが行動し取り組むという姿勢を大事にする必要がある。
2	石川県	株式会社金沢大地	井村辰二郎	持続可能な農業	能登の耕作放棄地を中心とした農地 190ha を開墾。有機農業で米、大麦、小麦、農作物を生産し、加工、販売まで手掛ける。販売では、ウェブ販売のほか、直営店でも販売。全国の会員制宅配サービス、自然食品店、百貨店、スーパーにも卸している。	・農業が本来持つ持続可能性に魅力を感じた。 ・経営理念は、「千年産業を目指して」。 ・5 つのミッションを持つ。 1)日本の耕作放棄地を積極的に耕す 2)有機農業を通じて自給率を高める 3)新規就農者の研修・受入 4)地域雇用の創出 5)農業主権・食料主権(東アジアの平和に視資する)	・ウェブ販売や会員制宅配サービスを利用する一般消費者。 ・自然食品店、百貨店、スーパー。	・農村は資源の宝庫。きちんとその資源の価値を伝えられるかがポイント。 例)奥能登珠洲の在来種の能登そばを商品化。そばのつなぎである小麦も添加する塩も能登産にこだわった。	・都会の人、若い人が里山を訪れる機会が少なすぎる。 ・有機栽培を行うために外から地域に入った人と地元の農家との温度差。 ・能登は佐渡と一緒に世界農業遺産として認定を受けて、生物多様性を大事にしていこうとしている。その中で、今現在は農業と生物多様性が結びついていない。	・農業と観光と漁業と人の生活は必ずしも利害は一致しない。その価値観の多様性のなかで、利害を調整する行政の役割はとても大切。 ・石川県は、地元金融機関と県が基金 53 億円を出資し、運用益で里山作りを応援する取り組みを行っている。能登そばは、このファンドの応援を受けて開発。 ・里山を活性化するためには、地域行政とプレイヤーの連携がカギになる。
3	福井県	コウノトリ呼び戻す農法部会	恒本明勇	持続可能な農業	農薬・化学肥料を使わない「コウノトリを呼び戻す農法」に取り組む。農薬・化学肥料を使わない有機農法・認証区分 1 に取り組む。	昭和 45 年にコウノトリが飛来してきたのが原点。「コウノトリを再び呼び戻し、人も生き物も元気な里づくり」をするために、2009 年に、「人と生き物にやさしい農業」を 4 名で始める。	・地元の農協 ・都市部	・コウノトリをシンボルとし、自然環境にやさしい手法で収穫した農作物に付加価値を付け、ブランド化。取り組み面積・生産者は年々増え、現在 21 人。JA 越前たけふみのインセンティブ買い入れ制度により、一俵あたり 2.4 万円で販売。また、食味値に応じた価格で買い取ってもらえる。 ・コウノトリを呼び戻すには面的な有機農業の広がりが必要。地域として取り組んでいくため、農協に全量販売している。農協のネットワークで仲卸・小売りに流通させることができる。	・越前市は、3,000ha の田んぼがあり、500ha の冬水田んぼに取り組んでいる。これは全国で 3 番目に多い。課題は、活動の継続性。高齢化・過疎化が進み、農業者が減っているなかで、次の世代への意識や活動の広がりをどうするか。 ・現代の人の営みと関わらせる具体策をどうするか、消費者と農業者の関係性づくり。	・知恵をだしあい、地域を盛り上げる。 ・地域の宝を活かした農業。

No	エリア	事例発表者	テーマ	事業内容	原点	ターゲット	戦略	障害・課題	対策	
4	長野県	信州ジビエ研究会 美麻ジビエ振興協議会	種山博茂	ジビエと鳥獣害対策	<p>・獣害対策のための罠仕掛けや地区に罠を仕掛けられる人の育成に従事。また、ジビエ料理の普及にも取り組んでいる。</p>	<p>もともとスキー場だったところに、菜の花とそばの混作を開始し、菜種油の搾油所をつくり、菜種、ヒマワリ・えごま油および生そば・乾そば・そば焼酎の生産・販売を行っていた。約5年前から獣害に悩まされるようになり、自分達でなんとかしないと地域の農業が滅びてしまうという危機感があった。</p>	<p>県民及び都市部</p>	<p>・ジビエ加工施設を建設。 ・地域で親しまれる料理を目指して解体施設ができる以前からジビエ料理の講習会を開催。 例) プロの料理人やフランス人シェフを招く。 ・地域でジビエを使ってもらうために学校給食でシカカレー、シカハンバーグを出してもらう。</p>	<p>・一般家庭へ普及していないため、売れない。 ・流通の課題は、安心・安全に食べてもらうにはどうするか。商品の課題は、飲食店に味・価格で満足してもらえるようにする。 ・販売まで手が回らない。 ・仕掛けた罠の毎朝の見回りが重労働であり、ほとんどボランティア。 ・猟友会は、有害鳥獣対策に対して受け身の場合が多いため、農家が自分達でやろうとすると、猟友会の会費を払わなければならない。 ・解体施設や加工工場の建設、罠の購入およびジビエ肉を大手流通で扱ってもらうための金属探知機の費用負担。 ・普及活動でシカ汁やイノシシ汁を提供するにも、お金を取ると保健所の指導が入るので、無料で提供している。</p>	<p>・捕獲から解体までの技術のレベルアップや料理講習会の実施。 ・ジビエが観光の一部となり県外から沢山の人に来てもらえるようなシステムづくり。</p>
5	岐阜県	NPO 法人メタセコイアの森の仲間たち内「猪鹿庁」	興膳健太	ジビエと鳥獣害対策	<p>・郡上を持続可能な地域にすることをミッションとし、「郡上のファン倍増計画」と「郡上に役立つ人材育成」の二本柱で事業を行っている。 ・猪鹿庁は、人材育成事業の位置づけ。メンバーは6名。若いメンバーは、20～30代。ほとんどが移住者。猟師の6次産業化による里山保全活動を目指す。 ・猪鹿庁は、猟師をする捜査一課、解体をする衛生管理課などで構成。平成22年から事業をスタート。最初の3年間は岐阜県の緊急雇用事業として実施。 ・NPO 自体は、もともと子どもキャンプを実施する団体。</p>	<p>・郡上に移住した自分達が、中山間地域において冬の仕事をつくりたいと思った。 ・昔、地域の人が冬に何をしていたのかということを勉強して、猟師が面白そうだ、というところからスタート。</p>	<p>・立上げ当初のターゲットは、名古屋都市圏の富裕層。 ・平成24年からは、郡上市内の農家にも販売しようと動き始めている。</p>	<p>・猪鹿庁は、里山保全組織。里山保全をやっているというグループであるため、誰でも参加できる。大事にしていることは、青写真(ビジョン)の共有、多様な連携(大学・民間・行政)、人材育成の3つ。 ・猟師ではなく、集落(農家)が自立した支援モデル(肉が集まる仕組みをつくって、販売収益をつくること)をつくった。郡上市八幡町洲河地域モデルとして、檻の無償レンタルや捕獲アドバイス、解体までを請け負う。農家に肉も生産してもらおうという考え方。</p>	<p>・猟友会のしがらみがあるが、やれることをやろうと思って取り組んでいる。</p>	<p>・地域でできることは自分達でやるという自治意識を持ってもらうことが重要。 ・自分達のようなNPOが、行政と集落の間に入って、自治意識を持った集落をどれだけ増やせるかが、郡上という地域が元気になっていく鍵になる。 ・NPOは、公共的な位置づけで委託事業を請け負うため、行政には立場が弱い。一方、大学にはNPOがやっていることを研究対象として捉えてもらえるので、良い関係を築きやすい。自分達のやっていることを学術的に正当化してもらえれば、行政に働きかけをしてもらうことができる。 ・民間の力も大きいので、想いを共有して企業のメリットにもなるように働きかけていく。</p>

No	エリア	事例発表者		テーマ	事業内容	原点	ターゲット	戦略	障害・課題	対策
6	愛知県	オーガニック ファーマーズ 朝市村	吉野隆子	持続可能な農 業	名古屋市栄のオアシス 21 で 2004 年からオーガニック食品の朝市を開催。受入対象は、新規就農・有機農家。販売商品は、米、野菜、果物、その加工品のみ。2009 年から毎週開催し、現在 60 組が登録。2011 年の売上は、3,000 万円。朝市では、就農相談コーナーも設けている。	・消費者サイドの視点からではなく、「有機就農者を支援したい」という思いが原点。	・有機農産物を求めている人たちすべて	・有機への理解と販路を広げるため、さまざまな事業を行い、朝市の集客増加につなげる。 例) 農水省委託による「なごや国際オーガニック映画祭」「有機農産物マッチングフェア」の運営。 ・朝市については、事業化を目指していないが、新規就農者の自立をサポートしているため、就農給付金を受給するために朝市を研修施設として登録。新規就農者は 150 万 / 年の補助をいただいている。 ・生産者には、全員朝市村実行委員会に入ってもらい、2 ヶ月に 1 回運営委員会を開き、組織運営を行っている。	・野菜が、朝市では売れるが、オーガニック市場ではあまり売れないこと。 ・小規模農家のための加工所づくり。加工については、事業化を目指しているため、福祉施設と協力してはじめていく予定。 ・研修を受けた人がスムーズに農業を始められるための支援。家・土地・アルバイト(収入不足の補てん)も探してくれるコーディネーターを増やすこと。	・名古屋駅前です市を開催していく計画もあり、もっとオーガニックに対する理解を広げていく。
7	三重県	有限会社 OZ	赤田清美	地域活性化 のためのエコ ツーリズム	・鳥羽でエコツアーを行う女性 5 名の組織。幸せを感じる感光(かんこう)がモットー。お客様・自然資源・住民・ガイドの 4 者のバランスを大切にしている。 ・エコツアーのコンセプトは、「素敵な自分を発見する島の旅」。 ・1 年を通じて海を使った食や遊びのツアーを提供。シュノーケルツアーや磯散策、ワカメ刈り、つまみ食いなど、鳥羽にしかない「らしさ」やアイデアを交えた、オリジナルなエコツアーを企画。 ・設立から 13 年が経過。	原点は、大好きな地元の人、食材、自然をたくさんの人に知ってほしい、ずっとあり続けてほしいという思い。	鳥羽に来る観光客	・鳥羽市とフラットな立場で話し合える場「鳥羽市エコツーリズム推進協議会」を設立し、「鳥羽エコツーリズム宣言」を掲げた。協議会の会長を OZ 代表者が務める。第 1 次産業から第 3 次産業まで 25 団体が参加。一団体ではできない地域の課題に対して「観光」という手法を通して解決策を話し合う。 ・協議会でできた新しいつながりを生かして、地域内のコーディネートを行っている。コーディネーターは、参画団体ごとの役割を明確化し、動きやすいような環境を整えること。役割を果たすことで各々のメリットが得られるようになると思う。	・鳥羽の持続可能なエコツーリズムの考え方(観光は、人の暮らし、漁業、農業、林業、その他の産業、景観に支えられているので、その地域に資源を還元し、守り続ける)を共感できる「場づくり(協議会)」と、ぶれない軸を可視化する「ものさしづくり(エコツーリズム宣言)」に取り組み、地域のマネジメントの仕組みをつくってきた。 ・マネジメントを発展させるためには、地域の外につながりをつくり、1 次産業から 3 次産業までが連携して 6 次産業に高めていく必要がある。 ・地域の中身づくりと、外に発信することはどちらか一方だけではうまくいかないため、両方をしっかりすることで持続可能な地域資源管理ができる。その結果として、生物多様性の保全や地域活性化につながっていく。	

(5) ディスカッションを通して共有された課題・および課題解決のためのアプローチ

() 事業化するための課題

目標設定が明確であるか。

フィードバック・評価のための評価軸ができているか。

主体(地元民・移入者)によって異なるが、目標・意識の共有化が図られているか。また、そのような場がつくられているか。

他との差別化・差異化、付加価値をどのようにつけるか。

人材不足、人材育成、資金調達。

() 課題解決のためのアプローチ

ハード面(利益)とソフト面(事業者の外側への波及)のバランスがとれた目標設定をし、事業成功への評価軸を可視化させる。

課題を共有する場づくり。

・「地域のマネジメント」と、「他地域とつながり情報発信すること」で、第六次産業へ飛躍させる。

・地域の自然資源とそこで活躍する人の魅力をセットで情報発信する。

多様な連携(学校・民間・行政)のもと、地元民の意識を高めるとともに、基金をつくり、応援してもらおう。例)いしかわ里山創成ファンド等

地域ごとにコーディネーター的存在をつける。

(6) 分科会の写真記録

事例発表の様子



ディスカッションの様子



2 - 3 分科会（再生可能エネルギーをビジネスにする）

（1）開催趣旨

再生可能エネルギーを利用してビジネスを起こしている、ビジネスを起こそうとしている NPO 等を招き、再生可能エネルギーの普及、持続可能な地域創造のための「サステナブルビジネス」の現状と課題を追求する。

（2）事例発表者、コメンテーター、コーディネーター

- ・【富山県】 越の国自然エネルギー推進協議会 会長 竹平政男氏
- ・【石川県】 NPO 法人市民環境プロジェクト 三国千秋氏
- ・【福井県】 大滝小水力利用協議会 / NPO 法人森のエネルギーフォーラム 増田頼保氏
- ・【長野県】 自然エネルギー信州ネット 小田切奈々子氏
- ・【岐阜県】 岐阜県小水力利用推進協議会 事務局長 / NPO 法人地域再生機構 副理事長 平野彰秀氏
- ・【愛知県】 おひさま自然エネルギー株式会社 代表取締役 平沼辰雄氏
- ・【三重県】 E2 リバイブ株式会社 統括部長 岡野昌世史氏
- ・【コメンテーター】 日本 EIMY 研究所 所長 新妻弘明 氏
東北環境パートナーシップオフィス 統括 井上郡康 氏
- ・【コーディネーター】 特定非営利活動法人エコプランふくい事務局長 / EPO 中部運営会議委員 / 北陸再生可能エネルギー協働事業化研究会 吉川守秋氏
環境教育ネットワーク とやまエコひろば代表 / 北陸再生可能エネルギー協働事業化研究会 本田恭子氏

（3）一般参加者

27 名

（4）内容

）分科会オリエーテーション（コーディネーター：吉川守秋氏・本田恭子氏）

前半に各エリア事例を発表いただき、再生可能エネルギーを利用して達成したいこと、現段階の状況、今後のスケジュールについて共有する。各発表に1つもしくは2つの質問を受け付ける。前後半の間に新妻先生から講演をいただき、後半に達成についての阻害要因、必要なことについてディスカッションする。前向きに、具体的な話題ができるように進めたい。

）事例発表内容まとめ

No	エリア	事例発表者		再生可能エネルギーを利用して達成したいこと	現段階の状況・今後の予定	達成に向けての阻害要因、必要なこと	対策
		所属	事例発表者				
1	富山県	越の国自然エネルギー推進協議会	竹平政男	木質バイオマスエネルギー事業を通じたモノづくり企業による地域密着ビジネスの構築。	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県などを中心に始められている「木の駅」(山の持ち主から原木を買取り、燃料や製紙用原料として利用する仕組み)の開始を検討。 ・ボイラー導入先の開拓 ・ペレットストーブ、パネルヒータ等の開発、販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス燃焼機器製造には大手企業が参入しておらず、資金力のない中小企業が片手間で事業を行っているのが現状。 ・資金力の問題で研究・開発が進まず、品質・価格の進化が起りにくい。そのため、普及の鈍化を招く。 ・バイオマスの認知度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場ニーズにマッチした適正な価格、機能を満たすとともに、東日本大震災以降高まる「自然エネルギー」への意識に合わせたマーケティングが重要。 ・優秀な技術・マーケティングスタッフを起用し、R&Dを充実させ、さらに最新のテクノロジーを導入して行く体制を築く。 ・勝てるプロジェクトにするために、資金調達はもっとも重要。
2	石川県	NPO 法人市民環境プロジェクト	三国千秋	市民ファンドによる太陽光発電事業や事業を通じた市民による環境教育・啓発を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市の「協働の街づくりチャレンジ事業」の調査研究助成を利用し、市民参加型の太陽光発電所設置に関わる調査研究を金沢市と協働で行う。 ・平成 25 年度に向け、金沢市と協働で、市内の保育所、幼稚園にアンケートを実施し、太陽光パネル設置への協力可否を調査。 ・今後は、以下を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 1.市民出資による太陽光発電所1号機の設置稼働 2.園児に対する環境教育の実施 3.市民への太陽光発電の普及啓発 4.出資者等に対する見学会の開催 5.2・3号機の設置検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO が、市民から資金を集めるためには、金融商品取引法上の制約等があり、資金の収集方法をどうするかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO でも資金が集められる「適格投資機関家特例業務」の利用を検討。
3	福井県	NPO 法人森のエネルギーフォーラム	増田頼保	伝統的な越前和紙の紙すきの水にも使われた砂防ダム(岡本ダム)における小水力発電設備の導入をきっかけとした地域活性化。	<ul style="list-style-type: none"> ・越前市大滝地区の住民や有志等で構成される大滝小水力利用協議会を立ち上げ、発電時期を選定。 	<ul style="list-style-type: none"> 水は、農業用水など関係者が多いため、さまざまな協議が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会、シンポジウムなどの話し合いを設け、行政、地域の工業用水利用者、地域住民、地域振興会、公民会などの理解・協力を得るための環境を醸成。

No	エリア	事例発表者		再生可能エネルギーを利用して達成したいこと	現段階の状況・今後の予定	達成に向けての阻害要因、必要なこと	対策
4	長野県	自然エネルギー信州ネット	小田切奈々子	地域が主役の「エネルギー事業」の創出を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然エネルギー信州ネット」は、長野県の強みである豊かな自然エネルギー資源を活かした地域主導型の自然エネルギー普及モデルを創出することを目的に市民個人・市民団体・地域企業・大学等と行政機関がつながった協働ネットワーク。現在、会員数は企業やNPOを含め319が参加している。 ・地域に根差した自然エネルギーの事業化を目指し、長野県全県に19の地域協議会を設立。 ・公共施設の屋根を利用した太陽光発電事業、行政と連携したメガソーラー事業、太陽光ができない人のために屋根をシェアする取り組み「相乗りくん」、長野県全県での薪ステーションを展開中。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりが一番大切。ネットワークをつくることによってお互いの顔が見られるようにする。 ・専門性のバランス、行政との連携も図りながら、地域が動く仕組み、他県にはない仕組みをつくる。
5	岐阜県	岐阜県小水力利用推進協議会/NPO法人地域再生機構	平野彰秀	<ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーの導入による地域再生。 ・農山村にある豊かな水・森林資源・食料を利用して、災害や不景気が来ても影響がでない「ゆるがぬ地域、ゆるがぬ暮らし」を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年から石徹白にて水車を導入し、休眠していた農作物加工所の復活などに電気を利用。同時に、地元のホームページをつくらせたり、カフェを運営するなどのさまざまな地域づくりを展開。 ・水車があることにより、4年間で地域に1,200人のお客さんが来訪。 ・集落の電気をすべてまかなう規模の発電所(合計140kW)を2016年に運転開始予定。 ・地域で組織をつくり、地域がリスクを負い、地域に利益が還元できる小水力発電所にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践者が少ない(やる人がいなければ、再生可能エネルギーは普及しない)。 ・水は地域の資源(外部資本主導ではなく、地域の主体性が大切)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成のために、地域再生機構では、岐阜県と協働で「ぎふ自然エネルギー学校」を実施し、木質バイオマスのカリキュラムやエネルギーの考え方や地域との関わり方を考えるカリキュラムを作成。また、岐阜県小水力利用推進協議会では、「全国小水力発電サミット in 岐阜」を開催し、「自然エネルギーと自治」をテーマとして扱った。
6	愛知県	おひさま自然エネルギー株式会社	平沼辰雄	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素社会の実現。 ・原子力発電の廃止。 ・再生可能エネルギーの普及による地域経済の活性化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おひさま市民発電所」の設置段階。 ・「おひさま市民発電所」は、公共施設、学校、保育園や事業所・工場など一定の広さのある屋根を借りて市民の手で太陽光発電するプロジェクト。 ・2013年から募集開始に向け準備中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達。太陽光発電をつける施設を探し出し、借りる約束を得てから事業計画を立て、資金を集めるという流れでは時間がかかり過ぎて、経営が成り立たない。 ・金融商品取引法の手続き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が持っている公共施設の屋根や建物を市民団体等に開放する。
7	三重県	E2リバイブ株式会社	岡野昌世史	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃した森林を間伐・搬出し、健全な森林へ育て、木質バイオマス燃料や木質ペレットを製造し、ペレットストーブやボイラー等の販売まで手掛け、持続可能な森林経営を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・林業だけでは立ちいかない状況の中、木質ペレット「木つぶちゃん」の販売やペレット専用の燃焼機器の販売等を検討。 ・環境省の支援を得ながらバイオマス発電を検討し、6次産業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材、資金、もの、情報の不足。 ・地方にあるため、人材の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資金に関しては、グループ会社から調達。 ・林野庁の森林再生プラン、経済産業省の固定価格買取制度や三重県が平2014年から導入を予定している環境税の動向などの情報や販売代理店などの情報収集を積極的に行う。

) ディスカッションを通して共有された課題・および課題解決のためのアプローチ

() 事業化するための課題

実践者が非常に少ない。

震災後の復興といった国の重要課題に対する縦割り行政の弊害。

人材（マーケティングスタッフ、管理能力を有する人材）の確保。

資金不足（事業運営費、研究開発費、人件費）。

() 課題解決のためのアプローチ

再生可能エネルギーを用いた地域ビジネス創出の成功事例を普及させ、実践者を増やしていく。

・再生可能エネルギーには、環境側面でのメリットだけでなく雇用創出、防災時のリスクを低減するなど、持続可能な社会形成に必要不可欠である点を、より一層社会に浸透させる。

・縦割り行政のデメリットを補い、新たな出会いやアイデアをもたらす協働をうみだす。

商工会議所等他の団体には、技術知識を持つ引退者や資格者が多いため、地域で各団体の特徴を活かした協働ネットワークをつくる。

資金調達

事業運営費：活動の地域設定もあるが、IT媒体などを用いて、より広域で資金調達する。

研究開発費：地域での資金循環を目指し、地域の技術を持つ中小企業を優遇する。

人件費：事業化補助のみでなく、事業化前の情報収集、企画立案に対する人件費を補助する。

(5) 分科会の写真記録

事例発表の様子



新妻氏講演



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子



2 - 4 分科会（持続発展教育＜ESD＞に本気で取り組む）

（1）開催趣旨

2014年の国連ESD10年最終年會合「ESD(持続発展教育)ユネスコ世界會議に向け、ESD実践、ユネスコスクールへの関心、登録が高まっている。この機会を有効活用し、関係者とのネットワーク形成、地域のESD実践が継続的に行われる為の仕組みづくりを行う。本企画はそのための第一歩であり、ユネスコスクール支援及び登録、ESD実践を更に拡大するための方策について、ESDの必要性を認識しているステークホルダーとの協議を行う。

（2）事例発表者、コメンテーター、コーディネーター

- ・【富山県】富山市立堀川小学校 校長 高木要志男先生
- ・【石川県】金沢市立中央小学校 校長 池端弘久先生
- ・【福井県】ふくいユネスコ協会 副会長/前日本ユネスコ国内委員 小竹三恵子氏
- ・【長野県】信州大学教育学部附属松本中学校 校長 松岡英子先生
- ・【岐阜県】岐阜大学教育学部 英語教育講座 准教授 巽徹氏
- ・【愛知県】あま市教育委員会 教育次長 浅井厚視氏
- ・【三重県】鈴鹿市教育委員会 課長 鈴木英文氏（代理：副参事兼指導 GL 高藤富子氏）
- ・【コメンテーター】国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官 五島政一氏
- ・【コーディネーター】環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子
環境省中部環境パートナーシップオフィス コーディネーター 山口奈緒

（3）一般参加者

18名

（4）内容

）分科会オリエンテーション（コーディネーター：新海洋子）

「持続発展教育に本気で取り組む」をテーマに、各エリアプレゼンターに「2014年を契機にどうESDを実践、展開、発展（支援）をしようとしているか」「ESD実践（支援）の現状」「実践（支援）」をしての変化（成果）（児童・生徒、教員、学校、地域の変化）」について発表してもらう。次にゲストによりESD教育の概念と各プレゼンターの発表を受けての課題やキーワードを抽出し、再び各エリアプレゼンターによる「展開する上での課題～何があればより展開できるか」について発表いただく。最後に協議により、環境省の施策の紹介と、協議内容のまとめに移る。

また、各事例の所属組織の属性により3つの立場から発表をいただく。

- A 小学校・中学校での実践 : 高木氏（富山）・池端氏（石川）・松岡氏（長野）
- B ユネスコスクールへの支援 : 小竹氏（福井）・巽氏（岐阜）
- C 教育委員会として学校への支援 : 浅井氏（愛知）・高藤氏（三重）

事例発表内容まとめ

No	エリア	事例発表者		ESD 実践の立場	ESD 実践、展開、発展の考え方	ESD 実践の現状	実践後の変化(成果)	展開する上での課題 / 何があればより展開できるか
		所属	事例発表者					
1	富山県	富山市立堀川小学校	高木要志男	小学校・中学校での実践	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年にユネスコスクール加盟。 ・教育目標は、「くらしをみつめ 自らの可能性を拓く子ども(子どものくらしづくり)」 ・「かかわり」「つながり」を尊重した人間形成に重点を置いた教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝活動:身の回りの環境を見つめ、自らの手で整える ・くらしのたしかめ:短い時間の話し合い ・授業:自分の課題を大事にして粘り強く学び続ける ・自主活動:一日の最後の時間に行う ・地域活動:学校に地域教育推進協議会を設立。大人の会議に子どもが参加し、町内会長とともに清掃等の活動を実践。 ・表やグラフで伝える:伝えたいことを、伝えるように論理的に表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・目当てを持って取り組んでいる児童の割合が増加の傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと教師だけでなく、保護者や地域の方も ESD に対して理解を深めること ・子どもに合わせた目的を明確に設定して、取り組みを評価すること ・今はできていない他校との交流をつくっていくこと
2	石川県	金沢市立中央小学校	池端弘久	小学校・中学校での実践	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年にユネスコスクール加盟。 ・「持続可能性(地域に残る持続可能なリソース)の再発見・再評価」および「現実を学び現実から学ぶ ESD が育む資質能力等」をベースに、総合的な学習の時間を「体験」から「学習」へ転換する。また、教科の授業を問題解決型に転換する(総合的な学習とのクロス、協働学習等)。最終的には、学校を地域の学びの拠点として再構築することを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習と総合的な学習とのクロス(4年「二つの用水」)、総合的な学習の時間の転換(5年「金沢の里山と私達の街」、教科の授業の転換(6年理科「大地のつくりと変化」)を実践。 ・総合的な学習と教科学習で育もうとしている能力は、クロスしている。そのため、やればやるほど、その差はなくなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の里山にある小学校と里山学習を交流。その後、その小学校が金沢市内に歴史散歩に来た。交流は、ESD において刺激的であり有効である。 ・東日本大震災以降、気仙沼市と交流を持ち、震災2年目に現地の小学校の先生にきてもらい、親子学習会を開催。振車体験・防災マップづくりなども行う。各家庭への意識づけになった。 ・フルブライト日米教員交流を実施し、教員、生徒にとって大きな刺激となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育という狭い世界の中で ESD を実践していても浸透しない。教育委員会や行政に現状を理解、支援してもらいたい。 ・ESD を実践するための学校インフラ(人材、時間的余裕)の整備。人員不足による教材開発の遅れ。 ・地域に残るカリキュラムの構築。 ・ESD を推進する学校の価値観と保護者の価値観の共有。 ・学校を管轄する文科省の ESD に対する理解が不十分。
3	福井県	ふくいユネスコ協会	小竹三恵子	ユネスコスクールへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体となって活動を進めるユネスコスクールの普及を目指す。 ・学校教育でユネスコスクールを推進することは、今までの教育を変えることにつながる。今までは学校で完結していた子どもへの教育が、地域で活動している環境、福祉等の任意団体で活躍される高齢者とコミュニケーションをとる機会が増えるに従い、外へと教育の場が広がっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2010年から県内でユネスコ活動に従事し、学校から地域へ教育の場を広げる活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年前は、福井県はユネスコ活動ができていなかったが、今では子どもたちが活動内容を発表し、交流会を催すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールは、文科省、ESD は、環境省が推進している。同じ日本で教育の根幹にするのであれば、協働する必要がある。 ・学校と違い、民間活動で ESD をしている団体には評価がない。 ・ユネスコスクールというネットワークに入ることで、他地域との交流が増え、他地域と地元の違いを感じ、子どもが疑問を持つ機会をつくることができる。 ・各地域の活動情報を気軽に知ることができる facebook などの IT 媒体の活用。

No	エリア	事例発表者		ESD 実践の立場	ESD 実践、展開、発展の考え方	ESD 実践の現状	実践後の変化(成果)	展開する上での課題 / 何があればより展開できるか
		所属	事例発表者					
4	長野県	信州大学教育学部付属 松本中学校	松岡英子	小学校・中学校での 実践	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年にユネスコスクール加盟。 ・1991年から学校目標に「たくましく心豊かな地球市民」を掲げる。 ・ESDの視点を取り入れたきっかけは、松本城の清掃を行ってきたことや信州大学教育学部のISO14001認証取得。県内にユネスコスクールがなかったことなどがあり、ESDの視点を取り入れて、これまでの活動を再構成することになった。 ・ESDの全体構想は、身近なエコキャンパス活動、全校生徒による地球市民集会、地球を愛することができる地球市民活動、学級の総合的な学習の時間の活用、から構成される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なエコキャンパス活動では、ゴミの分別・ゴミ処理、ゴミ分別の確認・検査、昼食時にマイはし持参、牛乳瓶を洗う時に節水を工夫、を実施。 ・地球市民集会「地球市民とは何か」では、地球的視野で人類の課題を考えていくこと、留学生との交流、世界平和や人権、環境、食糧問題の学習等、子どもたちが自主的にテーマを考え、教員がサポート。 ・地球市民活動では、全校で国宝松本城清掃、東日本被災地の中学校支援のため手作りたわしを販売、地域のお年寄りとの交流、菊の栽培、落ち葉はき(地域の環境美化)、梅園の収穫物の販売、を実施。 ・総合的な学習の時間では、みずず細工の現場見学に行った(1年生)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちから、地域を理解し、地域課題を解決することの重要性に対する発見や疑問があった。 ・生徒は持続可能な社会の実現に関心を持ち、自らの行動を考える。教師はESDへの関心の高まり、自分の教科との関連をどうつづけていくか、内容を考える。地域の方、保護者も支援して下さる。環境や資源だけでなく、福祉、人権、ジェンダーまで多岐にわたる認識が形成されてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員の負担にならないか」とネガティブな考え方は良い結果を導けない。 ・人材育成の面では、教師をESDの考え方に誘導させながら取り組めるよう促す。 ・地球市民活動の在り方などを通し、子どもの日常生活の中に落とし込む指導をする。 ・カリキュラムの中に取り入れることができていないので今後の課題にしたい。 ・情報発信が不十分。地域や他校とつながるための情報発信が必要。 ・大学との連携。
5	岐阜県	岐阜大学教育学部	巽 徹	ユネスコスクールへの 支援	<p>ASPUnivNet(ユネスコスクールを支援する大学のネットワーク)に加盟し、ユネスコスクールへの専門家派遣、スクール同士のネットワーク構築、ユネスコスクール志願校への支援を実施。また、岐阜県でユネスコスクール研修会を県と協働で立ち上げ、ユネスコの活動やESDの普及活動を実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の小中高等学校へのESD活動やユネスコスクール活動の普及。 ・ユネスコスクール研修会の実施。 ・地域のユネスコ協会との協働。 ・地域のグッドプラクティスの掘り起こし。 ・学校同士のネットワーク構築の支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数多くのESDの取り組みが、小中高を通して実践されていることがわかった。 ・ESDを広めるためのネットワークが必要。 ・ESDの取り組みを深めるための工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの普及活動を支援しているが、今は必ずしもユネスコスクールになるのではなく、ESD教育の拡張を図るために、学校に必要なネットワークを提供することが大切なのではないかと感じている。 ・大学は、必要な人材を派遣するミッションを担っているが、必要な人材をすぐに提供できるわけではない。教員の中には地元の情報を十分に知らない人もいるので、まずは大学内のネットワークを強化し、現場のニーズに応えらえる支援体制を作るようにしている。

No	エリア	事例発表者		ESD 実践の立場	ESD 実践、展開、発展の考え方	ESD 実践の現状	実践後の変化(成果)	展開する上での課題 / 何があればより展開できるか
		所属	事例発表者					
6	愛知県	あま市教育委員会	浅井厚視	教育委員会として学校への支援	<p>・教育委員会としてユネスコスクールを支援。「特色ある学校づくり」を目指し、事業の継続性、発展性、地域との協働を目指しているものに予算枠を設ける仕組みを持つ。</p>	<p>・「ふるさと学習」の支援として、出前授業の実施やご当地検定「あま市ものしりジュニア検定」を開発。</p> <p>・「出前博物館」やふるさと講座への講師派遣。</p> <p>・どのような事業に予算を配分しているかの内訳については、市の広報にて毎月公開している。</p>	<p>・「あま市ものしりジュニア検定」とその出前授業は、子どもたちがふるさとのことを気軽に学べる良い機会と活用されており、子どもへのアンケート結果においてもテキストが分かりやすい、面白かったなどの良い反応を得ている。</p>	<p>・子どもと地域のコーディネートはどう支援するか。</p> <p>・子どもや教師のモチベーションをいかに高めるか。</p> <p>・2014年度は、以下に力を入れていく。</p> <p>人材バンクを活用してふるさと教師を登録し、外部講師の出前授業をもらう。パッケージ化して学校に提供することで、学校側も受け入れやすい人材バンクづくり。</p> <p>ESDの教職員研修を複数回実施。防災カリキュラムを大学教員と協働で作成。学校と地域の防災教育が一体となるまちづくりを進めるよう支援。</p> <p>ふるさと学の充実を図り、教材開発の仕掛けづくりにつなげる。</p>
7	三重県	鈴鹿市教育委員会	鈴木英文 (代理:高藤富子)	教育委員会として学校への支援	<p>ESDの観点から教育内容のコーディネートに取り組む。子どもが「自ら生き方を考える力」を育める教育を、地域の資源を活かして実践。</p>	<p>・復興支援事業として、宮城県の女川第一中学校の学生と短歌と俳句の交流を行った。</p> <p>・小中学校連携による防災サミットを実施。</p>	<p>・陸軍・海軍に従事してなくなった方のお墓に記載されている年齢をデータベース化したものをもとに、子ども達自身が、聞き取りを行い、当時の戦争の状況について学んだ。そこから、身の回りにも「仕方がない」と受け入れざるを得ないことも確かにあるが、声をださずにいたら、どんどん仕方がない状況になることもある、ということも学んでもらった。</p>	<p>・カリキュラムマネジメントを作成。作成を通して、教師側も教科のつながりを意識する機会となった。総合学習の時間が各教科で学んだことを活かす時間になる。</p> <p>・カリキュラムをマネジメントすることは、教科の必要性に気付くプロセスである。</p> <p>計画を立てる際には、学習指導要領の方針が反映されているか、児童の強みを活かし、弱みを克服するものになっているか、地域の特長を生かしたものになっているかを見直すきっかけになり、実践の際には、地域の人たちに情報共有しながら子どもがつながりを実感する場となる。カリキュラムマネジメントを現場に浸透させることがESD教育には欠かせない。</p>

) ディスカッションを通して共有された課題・および課題解決のためのアプローチ

() 事業化するための課題

人材(教員研修、管理職の理解)不足。

地域の文化、歴史、資源を活かした教材(学校と地域の協働)不足。

ESDを取り入れたカリキュラムマネジメント(教科学習とESDの統合、カリキュラム内容の評価・改善)の実施。

家庭、地域への理解・連携、ステークホルダーとのコミュニケーション(保護者や地域社会のESDに対する価値観の共有、地域社会や他の教育機関とつながるための情報発信)不足。

() 課題解決のためのアプローチ

これから教員となる大学生や現場の教員が、学びの過程でESDに対するモチベーションをあげることができるような教育研修の実施。

地域で活躍するNPOとの協働。

- ・「教育人材バンク」の整備。ESDをパッケージ化(講師およびカリキュラム)し、学校へ提供。
- ・地域の伝統産業について校外で学べる機会を提供するユネスコスクールの活用。
- ・学習指導要領の方針を反映し、地域の特長を生かしたカリキュラムマネジメントの確立。
- ・カリキュラムマネジメントを作成し、教育内容の点検や評価を目に見える形で管理し、改善する。

ユネスコスクールやそこで得られるネットワークを活用し、地域および他地域との交流や情報収集・発信を図る。

(5) 分科会の写真記録

事例発表の様子



五島氏講演



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子



2 - 5 全体統括

各分科会のコーディネーターより、各分科会で共有された課題およびそれらに対するアプローチが発表された。ここでは、そのまとめに対する各分科会に参加したコメンテーター、ゲストのコメントを報告する。

(1) 里山・里海をビジネスにする(コメンテーター:愛知大学地域政策学部教授 功刀由紀子氏)

ジビエの話が2件あったが、カラスを食べに行ったご縁でここに立っている。知を愛す大学であることは、必ず覚えて帰ってほしい。勉強させていただき、ありがとうございます。

(2) 再生可能エネルギーをビジネスにする(ゲスト:日本EIMY研究所 所長 新妻弘明氏)

震災に遭い、怪我をして、はらわたがみえることによって、色々なものがみえてきた。これまで環境に取り組んできたが、「環境」という言葉もふっとんだ。ただ一つ、「協働」とは何か、再生可能エネルギー、ESD、生物多様性がどういう意味をもっているのかを考えるようになった。「環境」って何だろうと考えた時、人の営みと自然との関わりだと思った。

太平洋側と内陸の意識は違うが、みなさん地域で実態として活動されていた方だったので、「同じ大地の上に立っている」ことを共感していただけたのかなと思う。こうした震災体験が何かのお役に立てればと思うので今後とも交流したい。

(3) 持続的発展教育(ESD)に本気で取り組む(コメンテーター:国立教育政策研究所教育課程研究センター 基礎研究部総括研究課 五島政一氏)

事例発表者のバランスがよかった。行政、NPO、小中高の校長先生、多様なステークホルダーが集まり、充実した良い議論になった。各現場の立場から今までの成果と課題が明確にわかった。

ESDをやった時の一つの成果だが、教科学習と総合的な学習は分断されているが、近づいてくる。小学校の先生は複数教科を教えているから良いが、中学校の先生は教科別なので、学問体系の縦串からテーマごとの横串への人材育成が大事。また、学校はキャリア教育等で忙しいなか、ESDはすべてを総括するより良い教育をつくっていく、という広め方が大事である。

国立教育政策研究所のフレームワークが色んなところで使われて、2014年に向けてバージョンアップしていきたい。ESDを実践するには、管理職によるトップダウン、もしくは教員少しずつ巻き込んでいく方法など多様なやり方がある。ESDを広める上で、NPOがどのように学校に入り込んだら良いか、という方法論も話題のトピックとなった。外部の人が学校の事情、カリキュラムを知り、積極的に関わることも大事。

2014年に愛知、岡山で世界大会が開かれる。折角、中部7県でこうして集まったので、愛知として出た知見を日本の知見としてまとめていく必要がある。つまり、ESDをやったことによりどのような成果と課題があるのか。ただ、ESDの枠組み、中央集権ではなくこれから地方分権化する上で、教育の在り方を模索する時の一つの具体的なより良い教育を作る方法論になるのではと考えた。

ESDの一つの成果は、地域愛、郷土愛、郷土に対する誇りが身につけていることが成果として出ているので、愛知2014年の会議を一つのステップとしてさらにより良い教育になるきっかけになれば

良い。

(4) 閉会挨拶 (中部地方環境事務所総務課長 近藤亮太)

このような協働会議を今後も、深めていきたいと思った。さまざまな課題をいただいたので引き続き、本省にもあげて来年度以降も取り組んでいきたい。

3. アンケート集計結果

(1) 回収率

- ・アンケート回収枚数：42部
- ・回収率：38%

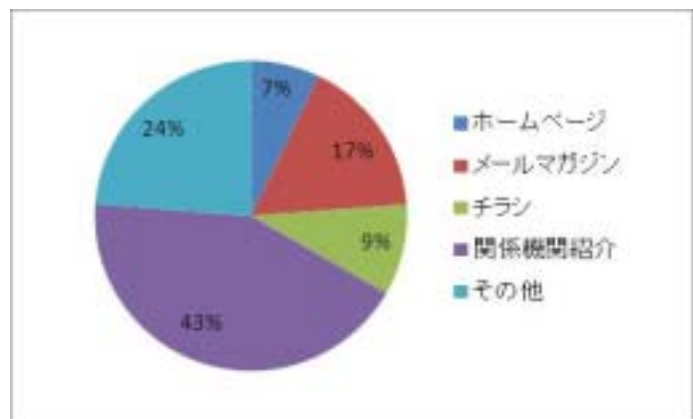
(2) 記入者(回収部数)分類

参加者	実数(人)
教育機関	4
学生	3
NPO	11
企業	7
行政	9
個人、その他	8
合計	42

(3) - 1 : 中部7県「協働」会議について

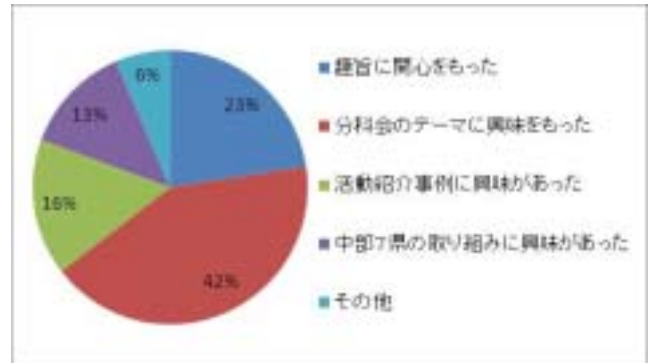
) 中部7県「協働」会議をどこで知りましたか？

知った場所	実数(人)
ホームページ	2
メールマガジン	7
チラシ	4
関係機関紹介	19
その他	10
合計	42



中部7県「協働」会議に参加された動機をお聞かせください。(複数回答)

動機	実数(人)
趣旨に関心をもった	14
分科会のテーマに興味をもった	26
活動紹介事例に興味があった	10
中部7県の取り組みに興味があった	8
その他	4

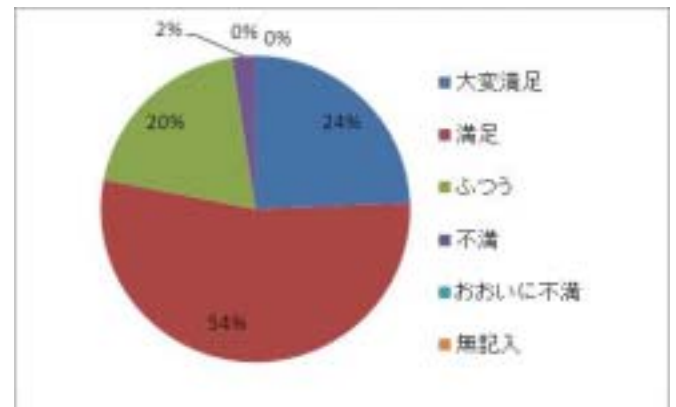


【その他 記述内容】

参加分科会	記述内容
再生可能エネルギー	大人の方々がどう事業を創りあげていくのかを見たかったから 事例紹介者
ESD	基本的な知識の収集・学習 私の持っているエコと子育てへの思いを知らせたかった

参加されての満足度をお聞かせください

満足度	実数(人)
大変満足	10
満足	22
ふつう	8
不満	1
おおいに不満	0
無記入	1
合計	42



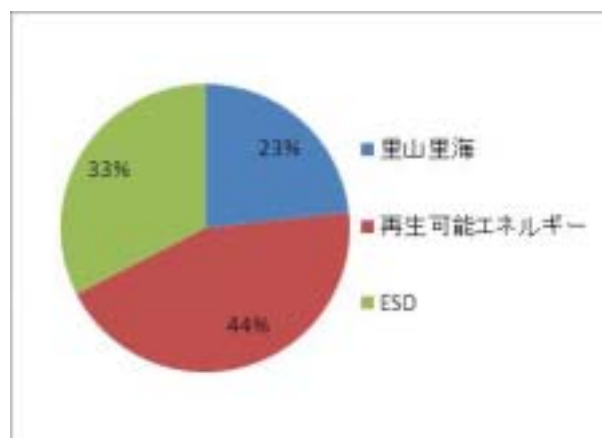
【理由 記述内容】

参加分科会	満足度	理由
里山里海	大変満足	立ち位置の違い、目標の捉え方等ヒントを得られた気がする。 人のつながりが最重要
	満足	有害鳥獣対策についても話を聞くことができた 各地の取り組み事例を知ることができてよかったです
	ふつう	自分が取り組んでいることに関しても、相談できるようなWSがあれば、もっとよかったと思います。思ったより”聞きっぱなし、聞き続け”のイベントでした。でも、もちろんその中から色々な参考意見頂けました。 ・「ビジネス」というキーワードだったので、成功事例ばかりかと思っていましたが、試行錯誤されている事例をたくさんお聞きできてよかったです。 ・各「協働事業」のメインの狙いが3つあったように思います。まち起こし、地球環境、（既に軌道に乗っている）事業そのものの発展。里山・里海という共通キーワードはあったのですが、各団体の狙いを理解するのが少し大変でした。
再生可能エネルギー	大変満足	充実した発表内容と活発な意見表明
		新妻先生のお話で元気が出ました
		多くの人に知り合えた
	満足	分科会ゲストの新妻氏、井上氏のお話しに、再生可能エネルギーの意義について理解を深めることができた
		地方の時代が定着する中で、地域の住民が主体となってエネルギー確保に努めることが重要になりましたが、皆さんの活動実態を拝聴して、その活力に感動すると共に将来への期待を膨らませることができました。
		知らないことを知ることができた
		地球現状維持(温暖化防止)を今後如何するかが、子孫にとって必要なこと。それに対するいろいろな方針、方法などを学ぶことができ、いろいろな企業が関心を持って活躍されておられること etc
		各エリアのNPOの方々の活動を知ることができた
		ゲストの講義で”自給エネルギー”に目を向けることの大切を実感した
		実際行っている方から具体的な話が聞けてよかった
普通	活動紹介事例や、講師の方々の事業に対する信念などを開けたことは大変有意義な勉強になった。しかし具体的な、実働レベルでのアウトプットが出てこなかった。もしくはコミットできなかったことについては悔いが残ります。	
	行政の関わりについての話まで進むことができなかったため。先進的な事例については参考になった。	
不満	・コーディネーターが勝手にしゃべっている。これではダメである ・技術、コストなど必要な話が少ない、何が目的かわからない	
無記入	いろいろな意見が出て、たいへん面白かった	

ESD	大変満足	持続可能な社会づくりに関して、実際に学校現場で行われている生の声を聞くことができ、今後の環境学習の普及について有意義な情報を得ることができたこと
		色々な立場、地域の方が語り合う場所は大切だと思います。ESD の考え方自体今回初めて知って、まだ全てわかっているわけではないですが、いろんな意味で新鮮でした。
		・EPO 中部のお母さん、先生たちが、生き生きと人の前で話され、総合力があってグイグイ惹き付けられるパワーを感じた。 ・岐阜大学教育学部の巽徹先生に名刺をもらい、私の分野をお知らせすることができました。宮城県大崎市の「NPO 法人たんぼ」岩淵成紀先生の実践研究をお知らせして、宮城教育大学ライスプロジェクトと岐阜大学間のネットワークづくりに働きかけたいと思いました。
	満足	社会課題に対して真剣に取り組んでいらっしゃる社会人の方々の姿、お話を目の当たりにできました
		実は ESD という言葉を数日前まで知りませんでした。私たち農水省で行っている取り組みと連携ができるとよいなと思いました。
		ESD についてよく理解できた
		タイトル通り、本気でESDに取り組んでいる人たちの発表と、本気で考えている人たちの”大人の勉強”になりました。
		実践事例や課題等、共感しながら聞かせていただきました。
		有害鳥獣対策についても話を聞くことができた (里山里海にも重複して参加)
		いろいろな学校のユネスコスクールの実践内容、方向性を知ることができた
普通	再生可能エネルギーをビジネスについては、ビジネス化について防災を含めて検討とのことだが、それならば、現在販売している大手企業の商品で問題なく感じる	

) どの分科会に参加されましたか？

満足度	実数(人)
里山里海	10
再生可能エネルギー	19
ESD	14
合計(里山里海と ESD 参加者重複)	43

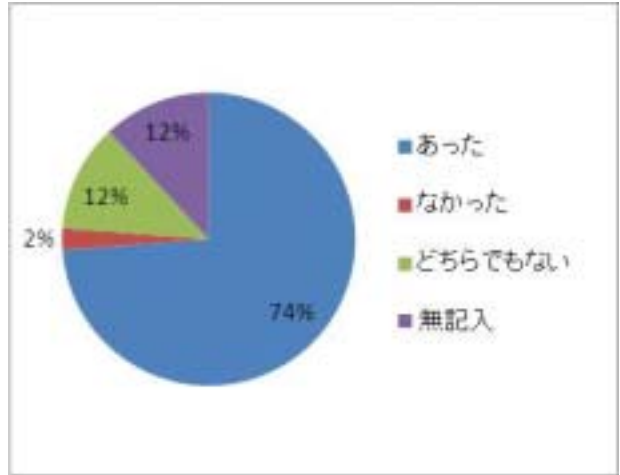


【理由 記述内容】

参加分科会	記述内容
里山里海	米を作ってるから
	業務において生態系ネットワークを取り扱っているから
	ビジネス
	業務に関連している内容があったから
	農業のこれからについて関心があり
	三つとも興味があり迷いましたが、地域の活性化につなげたいと思い選びました
	地域資源活用に関心があった。特に獣害について
	個人で取り組んでいるので相談したかった
	里山での生活をしたいと思っているので
再生可能 エネルギー	自分が最もコミットできるテーマと感じたから
	エネルギー問題を扱っているから
	当法人でも事業化していきたい
	再生エネルギーに関心があった
	職務に関係が深いことから
	事例紹介者
	自分の過去の経歴から現状を知りたかった
	協議会にて実施しているので。石川県省エネルギー推進協議会会長
	エネルギーに関して日頃行っているから
	自分の分野に近い
	今後は再生可能エネルギーが地球温暖化防止のため
	現在の取り組み内容と同じため
	自分の事業分野
	担当職務に関するものであるから
	これからは再生可能エネルギー
現時点での最大の課題のため	
エネルギー問題に関心あり。特に炭化	
ESD	環境教育・環境学習の推進や、地域・NPO と学校の連携を進める参考とするため
	他校の実践事例を聞きたいから
	地域のネットワークづくりのため
	今の学校教育に疑問があるから。教育が1番重要だと思うから
	三つとも興味があり迷いましたが、地域の活性化につなげたいと思い選びました (里山里海にも重複して参加)
	ユネスコスクール実践校に興味があった
	私の持場を確認。ツバメ、子育て

) 参加された分科会での「具体的なもちかえり」「役に立った内容」についてお聞かせください

満足度	実数(人)
あった	31
なかった	1
どちらでもない	5
無記入	5
合計	42

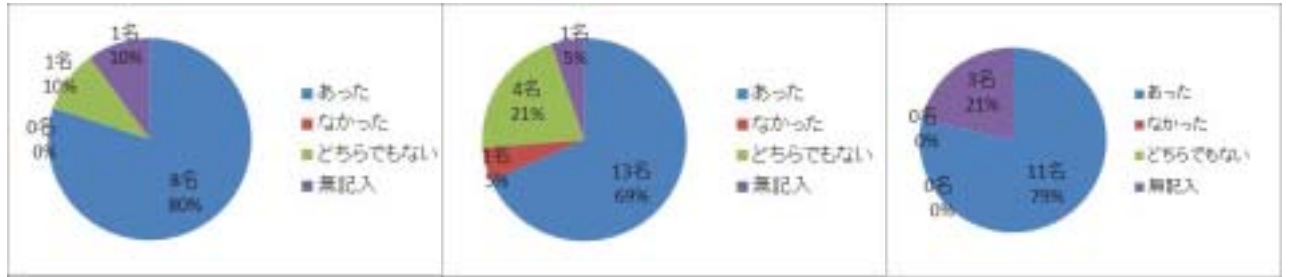


【各分科会内訳】

里山里海(10名)

再生可能エネルギー(19名)

ESD(14名)



里山里海、ESD 参加者 1 名重複

【理由 記述内容】

参加分科会	満足度	理由
里山里海	あった	人材の重要性
		ジビエビジネスにおける現状を知ることができた
		「協働」は、WIN-WIN の関係であることが大切
		農業についてより多面的に見る視点を獲得することができた
		地域でエコツーリズムを進めていくのに参考になった。自分のやって来たことが ESD だった。それをいろんな学校に広げていく必要を感じた。
		障害を超えるためのものについて様々な考え方があったこと
		パネラーの方、何人かの”考え方”、”視点”が参考になりました。
		都市、里山どちらも人の行き来があるとよい。人とのつながりがとても大切でうまく進むために必要
再生可能エネルギー	あった	災害から見た持続可能エネルギー
		新妻先生の話、自然エネルギーの考え方(自給エネルギー)。 NPO が事業化させる意見、ただのビジネスではない
		自給(エネルギー、お金の確保など)社会的リスクの軽減方法

		再生可能エネルギーは社会リスクの軽減、命をつなぐエネルギーだとの気づきがあった
		命をつないだエネルギー 再生可能エネルギー
		物質的なものを捉えがちであるが、心や暖かさも加える必要がある
		再生可能エネルギー技術の必要性およびその位置づけのヒントを得た
		中部7県協議会の資料
		小水力発電
		行政の関わりについても賛否がはっきりしそうな雰囲気は感じとれた
		越の国自然エネルギー、木材の集積場所を作る
	なかった	知らなかった内容も多かったが、中味の薄いものであった
	どちらともいえない	方策レベルで案は出たが、誰がいつやってゆくのか、という議論に起着しなかったため、結局誰も何もやらないのではと思うため
		プレゼン内容については様々な意見をきくことができたが、ビジネスとして捉えにくかった
ESD	あった	<p>”環境教育”の活かし方、地域の特色やその他要素との連携性を打ち出していきたい。”本気”でというには先進校がいかに困難を乗り越えたのか(人的・財政的)を発信してほしい。二の足を踏む学校や団体には必要かと思えます。</p> <p>ESD でつきたい力を明確にする、ESD カレンダーの充実、ネットワークづくり等</p> <p>地球温暖化対策を含めた環境学習を普及させる方法</p> <p>ユネスコスクールの制度</p> <p>学校側や教育委員会側の意見が参考になりました</p> <p>地域でエコツーリズムを進めていくのに参考になった。自分のやって来たことがESDだった。それをいろんな学校に広げていく必要を感じた。 (里山里海にも重複して参加)</p> <p>子どものおかれた社会的環境、自然環境を明白に映し出し、その環境にどう働きかけていくか、良心のある人が少しはあった。人間味ある校長先生やユネスコ関係の人がいるとわかった。具体的な持ち帰りはまだ乏しいです。だって、上役の人ばかり話しをしてる。</p>

)「協働事業の事業化」に向けてのお考え、ご意見をお聞かせください

回答数:(27)名

【記述内容】

参加分科会	記述内容
里山里海	<p>同じものさしをもった方々とでしか無理</p> <p>里山・里海の分科会は、「協働事業の事業化」、「サステナブルな事業を本気で創る」というよりも、「サステナブルな社会(地球社会、地域社会)を作る事業を、サステナブルに運営・発展させるには?」という言葉の方が、合っていたかなと全体の話聞いて感じました。</p> <p>(趣旨が違うかもしれませんが)行政に(大きく)頼らない地域づくりが基本</p> <p>いちばん大事なのが人づくり。ベースに目標の共通認識が必要、今あるところから出発してあるものを活かしていく。時間をかけて地道にやっていく事が大切。</p> <p>情報交換をしながら進めていけたらと思う</p> <p>地域住民、行政それぞれの立場での考え方、できることをまずは理解することから始まるのではないのでしょうか。また地域住民のリーダー的存在も必要ではないかと思います。</p> <p>すばらしいと思います。今後も期待しております。</p>
再生可能エネルギー	<p>アウトプットの出にくい雰囲気。どうしても議論に対して、当事者意識が持てないのは総会のような形式でやっているからだと思います。前半、講師のプレゼン、後半、ラウンドテーブルや複数の少人数のディスカッションで出てきたアウトプット</p> <p>これから増えてくると思います</p> <p>NPOのよさと大企業とのすみわけ</p> <p>事業化させたい本人が本気になれば、ある程度の支援は得られる(得られそう)</p> <p>小さな団体、個人でもつながれるとよいと思います</p> <p>対等な関係であることを理解するとともに、それぞれのセンター、立場の方々のことも知ること、目的を共有することが大切なことと感じました。</p> <p>少々時間が必要です</p> <p>それぞれの活動団体単独では、活動自体成果の大きさに限界がある。異業種の団体や個人が、資金・人材・アイデアを出し合うのは非常に重要である。事業化に際してはそれぞれが有する課題を洗い出してそれを共有し、種々の解決策を模索することが必要と考える。</p> <p>木質バイオマスの利活用を含め目指す森林資源の育成を考慮していくことを考えると行政の関わり方が重要であり、短期・中期・長期の各視点を具体的に需要と供給のバランスを整えながら目標設定と関係団体の関わり方を示す必要を感じました。</p> <p>補助金目当てのビジネスにはどうか?</p> <p>今後本日のことを、如何に効果を上げていくか</p> <p>法律の改正、規制緩和、人とのつながり、根気</p> <p>地域密着型の地道な再生可能エネルギーを活用した農業を活発にして里山・海を守り、持続可能な社会をつくらなければならない</p>

	人・物・金の経営資源のバランスよい補助が必要
ESD	学校、地域、家庭を結ぶ環境学習、保全取組
	どのようにカリキュラムに環境教育を入れ込むか、教育委員会や学校長・教員と充分協議する必要があるとのことなので、学校側への負担と合わせてメリットについてもしっかり伝えていきたい
	どのような事業を行うにも、継続的に提供できる市場があれば安定した事業運営ができます(市場は、人では講師として各環境団体、受講者は学校、場所は公園)しかし、今足りないのはコーディネート力と私は考えます。その対策として、私が管理させていただいている当公園を拠点に事業展開をはかるため準備しています。
	来週卒塾ですが、トヨタ自動車(企業)、豊田市(行政)、地域の未来(NPO)の三者協働の人材育成プログラムの豊森なりわい塾に所属していたので、協働は話も早くなるし、ムダも省けるので、これからはどんどんいろんな物がミックスされるとよいですね。
	情報交換をしながら進めていけたらと思う (里山里海にも重複して参加)
	中部地区それぞれ特色ある事例、地域があるので、そこから生み出されたものを話し合うことは意義があるし、何か共通のものが見い出されるかもしれない
	去年に続き協働事業といえるかどうかわかりませんが、 日本野鳥の会では今年 3/20 ツバメ全国調査が始まります。所定の用紙も送られてきます ラムネット J では愛知目標に準じた「水田目標」の分厚い本が出来て配布されています。 その中のどこに自分は位置するかです。(生き物調査) 宮城大学ライスプロジェクト+岐阜大学ネットワークづくり。ESD に関するユネスコ 会議(2014)にむけて、岐阜大学の巽先生と宮城大学学生さんや岩淵成紀先生に協働してほしいです。私もツバメ観察 USB メモリーを持っていますのでどこかで発表したい。合流したいです。一人ではできません。

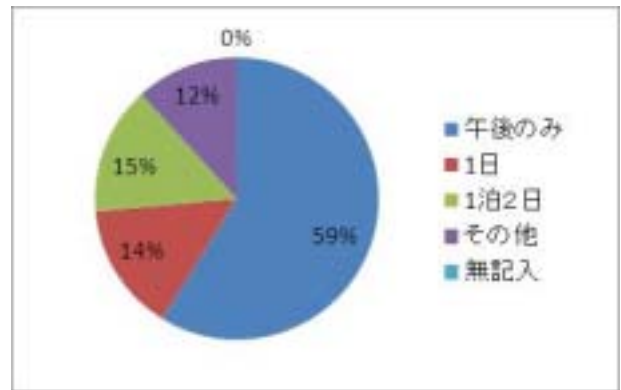
(3) - 2 : 中部7県「協働」会議の今後について

) 今後実施する際の日程についてお聞かせください

曜日の希望	実数(人)
平日が良い	23
土日祝日が良い	10
その他	6
無記入	3
合計	42



時間の希望	実数(人)
午後のみ	20
1日	5
1泊2日	5
その他	4
無記入	8
合計	42



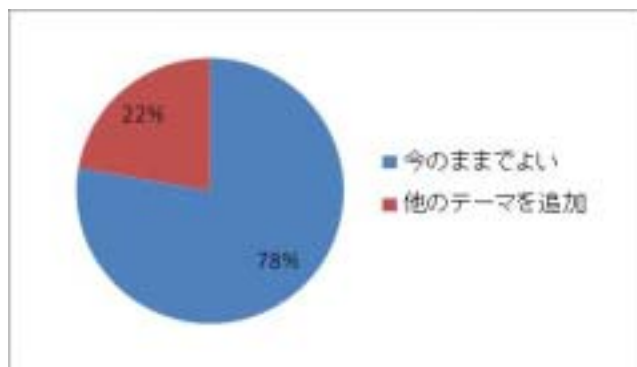
) 開催地についてお聞かせください

開催地の希望	実数(人)
愛知県名古屋市	28
北陸	3
長野	0
各地持ちまわり	10
その他	2
合計 (複数回答有)	43



) 事例報告のテーマ、発表事例件数についてお聞かせください

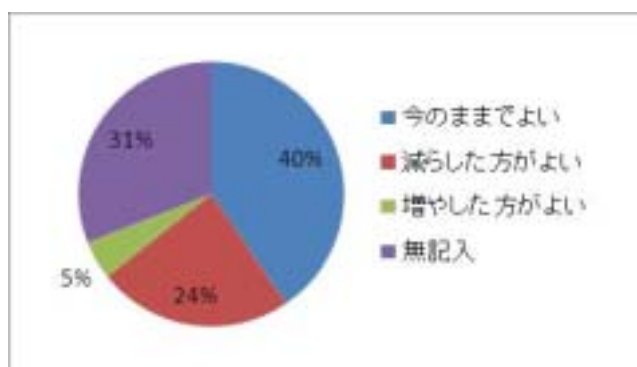
テーマの希望	実数(人)
今のままでよい	28
他のテーマを追加	8
無記入	6
合計	42



【他のテーマ 記述内容】

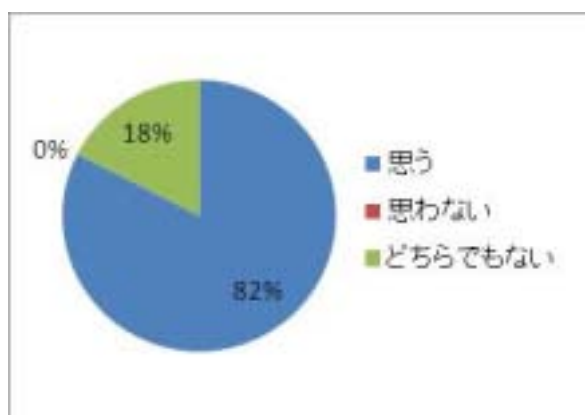
参加分科会	記述内容
里山里海	生物多様性の取り組み
再生可能エネルギー	今後の世間を幸福にするためには

事例発表の希望	実数(人)
今のままでよい	17
減らした方がよい	10
増やした方がよい	2
無記入	13
合計	42



) 次回も「協働会議」に参加したいと思われませんか

参加したいと思うか	実数(人)
思う	33
思わない	0
どちらでもない	7
無記入	2
合計	42



【理由 記述内容】

参加分科会	参加希望	理由
里山里海	思う	おもしろかったから
		地域課題、社会課題の解決は単独では難しいので、大学の知識を還元する必要がある
		違うテーマも聞いてみたい
		現場の取り組みについて知るよいチャンス。
		今後活動する上で参考になる
	いろいろな方のお話を1度にうかがえてとても良かった	
	どちらでもない	担当業務とあまり関連がない内容であったため
		今のところどちらとも言えない。ただ、パネラーとしてなら絶対参加したい。客なら参加しません。
再生可能エネルギー	思う	今回まったくアウトプットを出すことができなくて悔しかったから
		充実した内容の発表者
		「どうなったか」という状況を知りたいと今は思っています。
		共通の理念と問題を抱えていることがわかった
		私が現在関わっている市民活動において「協働」の必要性を痛感しているが、本会議に参加することにより参考になる情報が得られるため
		日々刻々と変動している事から状況変動による視点を加えていく必要があることから予定と実態の変化等を知る必要がある。
		新しい情報が得られると思うので
		有意義な意見交換ができた
		興味深いテーマ
		色々な話が聞ける
		今回は時間の都合で本当に聞きたいと思っていたことが協議時間に入らなかったため
		よりよい協働会議となればよいから
		具体的な事例を知りたい

	どちらともいえない	年齢的な関係で健康面で？
ESD	思う	社会人の話を聞く絶好の機会。社会課題に対して大人が感じている問題意識、ニーズをイメージしやすくなる。そこから課外活動の展望が見える。
		まだまだ ESD について勉強したい
		最新の情報を入手したい
		協働がこれからは必要なので、こういう機会を増やしてほしいから
		今後活動する上で参考になる (里山里海にも重複して参加)
		やっぱり「人」です。EPO 中部のお母さん方はパートナーシップの達人だと思います。日本野鳥の会、ラムネットJ、NPO 法人たんぼの社会的役割をPRしたい。先達としての 37 の団体の人に名古屋へお話に来てほしいです
	どちらともいえない	テーマが関心に合えば参加したい
		ユネスコスクール担当になった人が参加するとよいと思います。
		会議またはワークショップの時間があるとよい

() 参加されて、本会議の改善点、ご要望についてお聞かせください

回答数 : (27) 名

【記述内容】

参加分科会	記述内容
里山里海	よかった
	分科会のテーマが少し広く感じました。それぞれが抱える課題が違うので共有し合えないのではないかと
	分科会のテーマから離れた議論をしている時間がありました。そこから学ぶことも多くあったのですが、時々整理していただけると、より理解しやすかったと思います。
	討論のテーマ(各発表者の問題意識)に幅がありすぎたような気がします
	欲を言えば、時間をもう少し長く取って、各取組みをより具体的に生き生きと紹介してもらえると、より心に残ると思います。
	欠点は全くない。完璧なカリキュラムだと思います
再生可能エネルギー	テーマが多すぎる
	アウトプットの出にくい雰囲気、どうしても議論に対して、当事者意識が持てないのは総会のような形式でやっているからだと思います。前半、講師のによるプレゼン、後半ラウンドテーブルや複数の少人数のディスカッションで出てきたアウトプット
	企業の方(産、学、官とも)の参加でもっと話を聞きたい
	マッチング(個人も含む)の場がもう少し増えるとよいですね

	参加者の方々の交流ができる時間もあると、ネットワークをつくるきっかけになると思いました。
	時間が短い点
	参加者の発言機会(時間)を増やしてほしい
	北陸三県の EPO 中部・北陸の内容は、ほぼ認知していた事例であり、7 県の事例発表は若干多かったのでは。それより、ディスカッションの時間の方が興味深かった
	発表者時間厳守(強制的にやめてもらうことをしても可)
	特にありません
	分科会会場が少し狭い 時間が短いので発表者を少し絞るか全体の時間を多くとってほしい
	少し寒い
	・シンポのやり方を改善 ・人材の教育の経験者が取り締まっている感じでした
	特になし
	同じような事例が多い。例えば太陽光。他の事例も紹介してほしい
ESD	社会人が課題解決に熱心に取り組む様子を、もっと学生にも見せるべき、学生は向き合うべきだと思います。学生向けにも広報を広げていいのでは？
	ESD を環境省がリードする趣旨を、外に出してほしい
	最後の全体会は、自分には必要ありませんでした
	特にありません
	コーディネーターや講師の気持ちは理解できたが、受講者(子ども)の気持ちや評価結果が含まれているとよい
	パネラーと参加者で 6 つぐらいグループを作って、各グループのディスカッション後、グループごとの発表で全体共有でもよいかもしれません
	熱意が充満していてよかったです。また、宝ものをいっぱい持っている人が話しかれていないと思いました。教育委員会の先生には現場の先生や地域の意見を聞いてほしい。

(3) - 3 : [最後に] 事例発表者へのメッセージ、本企画についてのご意見・ご感想などを自由にご記入ください。

回答数:(28)名

参加分科会	記述内容
里山里海	ものさしや認識が、同一の方々が集まった感じ
	ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスは、利益を追求することは難しいので、いかに地域と連携・協働するかが重要だと思います
	「課題」を課題と思わない！というポジティブさに感動しました。ありがとうございました。

	<p>それぞれの地域の課題に取り組んで、それを解決するためにがんばっておられるみなさんを知ることができ感動しました。地域の課題の底には共通の大きな問題があり、それを各自バラバラにビジネスとして成功させるということではなく、ともに解決に取り組んでいくことが必要ではないか、そうした動きが出てくるとよいと思います。</p>
	<p>遅れての参加でしたが、参加させて頂きとてもよかったです。ありがとうございます。次回は始めから参加したい。</p>
再生可能エネルギー	<p>実際にやっておられることはもちろん興味深く、聞かせていただきましたし、それに対する想いなども大変心に響くもので、思慮深かったです。実働に向けてのアウトプットを出すことには聞いている側ももっと協力できなかったかなと申し訳なさが残ります。今度こそは本気で創りましょう。</p>
	<p>新妻先生の話聞いて良かった。災害の中で再生可能エネルギーの意味が明らかにされた</p>
	<p>すべての発表者から刺激ピンピンでした</p>
	<p>資料希望します。ありがとうございました</p>
	<p>事例発表者の方々は、いろいろな困難があるなか、地域の課題を解決しようと実践されている方で、実践されているということ自体に深く敬意を表したい。 地域という現場での実践で得られるノウハウ、データというものは貴重なもので、このような会議の意義は、それらのネットワーク化、共有化のきっかけになることだと感じる企画でした。</p>
	<p>ビジネスへの視点を強調すると、企業体でやればいいと思います。 再生可能エネルギーに合意形成や理解教育的なスタンスを重視するのであれば、ネットワーク型地域社会を構成している住民の参加が不可欠ではないか？</p>
	<p>1. 私は NPO 法人のメンバーであるが、本企画は基本的な内容を含むもので今後自分の活動に活かしていけるものと考えます。 2. 数年前まで電力事業と関連機関でエネルギー研究に従事したので、今回の企画は自分の過去を振り返るとともに、現在社会が抱えている課題の一部について関係者が努力されていることがよくわかりました。</p>
	<p>色々な立場、企業、プロジェクトが集まったの話は今後興味ある</p>
	<p>この様な色々な発表者による発表を勉強し、色々思考する機会は本当によかった</p>
	<p>本日の報告書をください</p>
	<p>大変楽しく聞くことができました</p>
	<p>出資のお願いなどの集金用紙があってもいいのでは</p>
	<p>ありがとうございました。個別にお話を聞くことができればと思うことが多くありました。</p>
	<p>特になし</p>
	<p>表のポイントを良く整理して発表すること</p>
ESD	<p>各県からのコメンテーターの方々のジャンルが「食」のテーマのみであったので、次回からももう少し幅広く集めるべきでは？ (ex) 工芸や祭事などの観光業も里山。里海の恵み ビジネス</p>

<p>鈴鹿の教育委員会の方がいなければ今日のESDのテーマは理解できなかったと思う</p>
<p>本気で取り組む人たちの輪が広がり、今日発表された方々が特別ではなく、「ちょっと先を進んでいる」くらいで、他の学校、地域等がついてくるといいなと思いました。</p>
<p>ありがとうございました。司会の方の進行の上手さに感動しました。勉強になりました。</p>
<p>有意義なご講演等ありがとうございました</p>
<p>・ユネスコスクール発表者さんへ 担当教員の苦労はよく分かります。その担当者の意見も取り入れた発表を希望</p> <p>・ユネスコスクール支援者さんへ 支援の大変さがよく分かります。しかし、活動が地域やメディアに取り入れられなければ普及や理解を得るには難しいため、その面のバックアップを希望</p> <p>・教育委員会さんへ 鈴鹿市さんの発表の子どもの実態で活かされたことはもっともなことと思います。その考えは、私達(30代～40代)の子どもの時とは変化していることを理解し、顧客目線のプログラムを作らなければ、講師の自己満足に終わる可能性があります。</p>
<p>ESD とユネスコスクールのことが前よりは理解できました。愛知県ではあまり聞いたことがないので愛知県の状況を知りたいとも思いました。いろんな立場、いろんな地域の先生方のお話が聞けてよかったです。</p> <p>結局、子どもの教育だけでなく、大人も一緒に学べる形がよいのだと思いました。ユネスコスクールは持続発展教育ということで原発のことをどう思っているか聞きそびれました。持続可能ということと、経済優先の企業人を育てる今の教育は反対の方向を向いていると思うので、そのバランスをどう取っているのか、聞いてみたかったです。個人的には学力重視の今の教育に限界を感じて新しい教育が生まれてきそうな希望が持てました。</p>
<p>事例発表者の岐阜大学教育学部巽先生にあと一年、2014年ESDを一つの山としてどうぞ持場を十分に活かし奮闘してほしい。東北で震災を受けて体力が弱っている学者さんたちにどうぞメッセージを。</p>

以上